

特別支援



学園祭だけでなく、地域の行事に参加したり、将来を見据えた現場実習に取り組んだりと各学部それぞれいきいきと学習活動に取り組んでいます！

小学部 障害者芸術・文化祭

11月7日(金) よっちゃばれ広場で開催されました山梨県障害者芸術・文化祭の舞台発表に出演しました。歌・ダンス・楽器のグループに分かれ、手作りの衣装やマイク、楽器を使って『ともだちになろうよ♪』を発表しました。大きな舞台に緊張している児童もいましたが、たくさんのお客さんに観て頂くことができ、達成感を味わうことができました。また、福祉事業所による販売で自分の好きなものを買物するなど、校外での経験を広げることも繋がりました。



中学部 劇の発表

中学部では学園祭「きりの子まつり」にて「自分で考えよう！仲間とコラボしよう！」のテーマに「なかまコラボ☆フェスティバル！」を発表しました。総合的な学習の時間でどんな劇にするか話し合いを重ね、音楽でテーマソングやダンスを練習し、美術で小道具を、職業・家庭で衣装を作るなど、自分達の手で作った劇でした。附属中学校からは応援の看板をいただきました。



高等部 現場実習

高等部は進路学習の一環として産業現場等における実習を年に2回、10日間ずつ実施します。実習先では、農作業、果物や野菜の加工業、菓子製造、通販事業、部品の組み立て等の軽作業、PC作業、飲食業など様々な業種で働く体験を通して社会生活へ参加しようとする力を身に付けます。実習を終えた生徒達は、成果や課題を整理し、報告し合うことで一段とたくましく成長できました。



現場実習報告会



仲よし会より

みんながうれしい気持ちになるために、花植えをして、学校を花でいっぱいになりました。全校を縦割りにして3グループに分かれて、みんなでがんばって植えました。それぞれのチームで先輩と後輩で話をしながら楽しく活動に取り組みました。全学部で協力して関わり合いながら花植えができました。 仲よし会 会長 小林 宣明



きりの華 25

Kiri-no-ka

第14号
2025年12月発行
山梨大学教育学部附属
幼稚園・小学校
中学校・特別支援学校

幼稚園

現在園舎改修工事のため、附属幼稚園の子ども達は仮設園舎で過ごしています。普段とは違う環境の中でも、おもしろいことをたくさん見つけ、お友達と一緒にたくましく成長しています。新しい園舎に戻る2月も楽しみです。

スポーツフェスティバル(10月)

本園の運動会にあたるスポーツフェスティバル。今年は、特別支援学校の体育館で開催しました。かけっこやかわいらしい踊りを見せてくれた年少さん、ダンシング玉入れや縄跳びの競技を楽しんだ年中さん、シンボルのアーチ作りやパラバルーン、リレーと大活躍だった年長さん。室内開催で、暑さや天気心配もなく、親子と一緒に体を動かしながら楽しいひとときを過ごすことができました。



焼きいも会(11月)

年長さくらさんが育てたサツマイモ。今年の焼きいも会では、1年生と一緒に附属小学校の畑に植えたものと、山梨大学生命環境学部准教授 片岡良太先生(通称「土博士」)にご指導いただいた袋栽培のものを合わせて、おいしく味わいました。

本園の生活は子どもが主役！焼きいもの準備も子ども達が進めていきます。まずはみんなで中学校の校庭に出かけて、落ち葉拾い。大きな袋いっぱい落ち葉を集めてきました。続いて年長さんがおいもを包丁で切り、年中さんと一緒に新聞紙とアルミホイルで包んで準備完了！そこに年少さんも加わり、みんなで園庭のたき火を囲んでお芋を投げ入れ、ホカホカに焼き上がるのを待ちます。

ほくほく黄金色のサツマイモを頬ばると、子ども達はニコニコ笑顔に！秋の味を楽しんだ子ども達は、「おいしかった〜」「もっと食べた〜い！」と、まだまだお腹に余裕がありそうでした。



新入園児・転入園児募集について

現在、新入園児・転入園児を募集しております。詳しくは、本園のホームページをご覧ください。



お問い合わせ：令和7年度附属4校園事務局（附属小学校）055-220-8291
発行番号は2021年(令和3年)初号からの通算番号です。



山梨大学教育学部附属小学校創立150周年記念式典

今年度、本校は、教育学部の前身である山梨師範学校の附属小学校として明治9年8月に開校以来、150年目の節目の年を迎えました。そこで、11月21日（金）、全校児童・教職員・来賓の皆様が参加するなか、記念式典を実施しました。山梨大学 中村 和彦学長の「お祝いの言葉」において、児童に向けて二つの大切なメッセージをいただきました。一つ目は「無限の可能性を信じて、新たな挑戦に積極的に取り組んでほしい」ということ、二つ目は「怒の心を持ち、自分自身を大切にすることと一緒に、相手を思いやることのできる優しい人になってほしい」ということです。

その後、同窓会・あおぎり後援会・PTAの皆様より記念品をいただき、児童会長が未来に向けての「誓いの言葉」を述べるなど、150周年にふさわしい式典となりました。



▲ 中村学長「お祝いの言葉」



あおぎり講座

本校では、山梨大学の附属学校であるという特長を生かし、5・6年生児童及び保護者の皆様が、大学の先生方の専門分野の授業を受講する「あおぎり講座」を開催しています。今年度も10月25日（土）の土曜参観と併せて、医学部・生命環境学部・工学部・教育学部の先生方にお越し、大変充実した講座となりました。山梨大学のキャンパス内の各教室で、8つの講座を開講し、先生方には子供たちの興味・関心をひきつけながら、大変分かりやすく楽しく教えていただきました。ありがとうございました。講座の様子と子供の感想をご紹介します。



▲ 記念品贈呈



▲ 東條太河氏（OB）による記念演奏会



大塚稔久先生（医）
記憶のしくみ



犬飼潤治先生（工）
太陽の光と水素を使ったこれからの社会



久本雅嗣先生（生命）
香りと味わいの科学から見るワイン

- ★一番心に残ったのは、甲府キャンパスの広さでした。教育学部があんなに広いなんて！
- ★山梨大学に入るとしたらこの講座を思い出したいです。
- ★教えてもらったことを生かしてたくさん成長出来たらいいなと思います。
- ★特に印象に残ったのは、「美文字を書く時のコツは、間架結構が大事」だということです。

- ★楽しい授業をありがとうございました。記憶について海馬など様々な事を学びました。
- ★記憶を定着させるには、復習が大切ということが分かったので、これからは復習をたくさんして、いろんなことをおぼえたいです。
- ★一番心に残っているのは水素を発生させる実験です。みんなで考えて試してみても面白かったです。



好きをみつける

「附属中生の可能性を広げたい」との思いから始まった若桐講座も15回目を迎えました。今年度は教育学部、医学部、工学部、生命環境学部から12名の先生方に大学の教室で講義をしていただきました。「数学的な見方・考え方」、「医師の仕事あれこれ」、「AIと私たちの未来社会」、「南極から



探る地球環境」、「ロボットのはなし」、「発生工学の最前線」など、多岐にわたるテーマの中から最も興味のある分野について学んだことは、可能性が目の前に広がる中学生にとって貴重な機会となりました。大学の先生方の熱い思い、保護者の温かい思いを受けて、生徒のみなさんは自分自身の生き方について真剣に考えることができたのではないのでしょうか。



“魔法”をかけた2日間

第55回桐龍祭が、テーマ「Magic」のもと、9月19日、20日の2日間にわたり実施されました。仲間への声かけ、自分に任された部門活動、その一つ一つが「魔法」となり、当日はそこでしか味わえない感動の中、成功を収めることができました。



今年度は、体育部門の開会式の中で、ブロック応援が加えられ、より一層、縦割り活動の充実が図られました。そして、閉祭式で歌われた全校合唱「時を越えて」。附属中生としての伝統が脈々と受け継がれていく姿が、今年もそこにありました。来年はどんな進化を見せてくれるのか、楽しみです。



心一つに

11月10日、YCC 県民文化ホールにて合唱のつどいが行われました。1年生の学年合唱は「あさがお」。未来に向かって大きく伸びゆく自分たちを重ね合わせて歌っていました。1年生らしい、明るく弾けるような歌声が響きました。

2年生の学年合唱は「ヒカリ」。出だしから迫力のある表現でした。学年全員で呼吸を合わせて、一つひとつの言葉を紡ぎ出して歌い上げる姿から、昨年度より大きく成長した様子が伝わってきました。

3年生の学年合唱「鷗」。「ついに自由は彼らのものだ。」美しいハーモニーがホールいっぱいに広がり、聴く人の心を大きく揺さぶりました。ア・カペラの難しい楽曲ですが、見事に歌い上げました。3年生にしかできない深みのある表現で、“人間の自由”を、“大いなる未来に生きていく希望”を伝える合唱を創り上げました。各クラスの合唱も、それぞれのクラスの“らしさ”や“共に歩んできた歴史”を感じる素敵なものばかりでした。また、仲間の合唱に聞き入る姿やお互いに聞いた感想を伝えて讃え合う姿が印象的でした。



伝統光る附属中の合唱文化は、これからも受け継がれ、発展していくと確信した一日でした。